

2023年6月25日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

創世記 2 : 23

ヨハネによる福音書 6 : 53～58

「まことの食べ物」

(ハイデルベルク信仰問答 問 75～77) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】

【招詞】 詩編 95 : 6～7

【祈祷】

【祈祷】

天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

あなたは今日も、わたしたちを目覚めさせ、新しい朝、新しい命を与え、一人一人の名を呼んで、この礼拝へと召し集めて下さいました。心より感謝いたします。

今日ここに集うまでの日々も、わたしたちは、あなたの御言葉と恵みによって生かされ、支えられ、歩んでまいりました。しかし、あなたの御心に従わず、あなたを愛すること、隣人を愛することを怠り、祈ることの少ない日々、まことに自分勝手な歩みであったことを、ここに告白し、悔い改めます。どうか、憐れんで下さり、お赦し下さい。

これから共に聖書の御言葉を聞きます。語る者、聞く者に、聖霊なる神さまが豊かに働いて下さり、神さまの恵み豊かな御心を悟らせて下さい。御言葉によって、わたしたちを新しくし、神さまに喜ばれる歩みをする者とならせて下さい。この礼拝の中心に、生きておられるイエスさまが、豊かな交わりをもって臨んで下さり、わたしたちに信仰の励ましを、慰めを、与えて下さい。

また兄弟姉妹の中で、今日も様々な事情によって、ここに集うことが出来ない、多くの者を覚えます。体の弱さや痛み、病の中にある者に、癒しを与えて下さい。また心の悩み苦しみの中にある者を、あなたが慰めて下さい。祈りつつ与えられている場所にいる者に、守りと導きをお与え下さい。どうか、それぞれにあっても、聖霊によって御言葉が届けられ、共にこの礼拝の祝福と恵みに与ることが出来ますように。

主よ、世界の歩みを導いて下さい。争い、分断が起り、また傷つけあうような歩みをしています。苦しみ、悲しみ、嘆きにある人々に、どうか慰めと平安が与えられますように。そして、あなたの御心がこの地になりますように。まことの平和が、ありますように。

そのために、わたしたちもまた、執り成しの祈りを怠ることなく、御心に従って、神さまを愛し、隣人を愛し、また赦す者とならせて下さい。

そして、地上のすべての教会が、イエスさまに現わされた神さまの愛を、まことの平和を、力強く宣べ伝えていくことが出来ますように、強めて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】 創世記 2 : 23、ヨハネによる福音書 6 : 53～58

【説教】「まことの食べ物」

<聖餐とは？>

今日の『ハイデルベルク信仰問答』は問 75～77、「聖餐」についてです。ちょっと長くてびっくりされるかも知れませんが、本日はこの問答から聖書の御言葉を聞きます。

わたしたちの教会では、月に一回、礼拝において、聖餐に与ります。聖餐は、イエスさまの救いを信じて洗礼を受けた者たちが、生涯にわたって与り続けるものです。

洗礼とは、水を使う聖礼典ですが、生涯にたった一度だけ受けるものです。洗礼とは、イエスさまの十字架の死と、復活の救いの御業が、わたしのためのものである、ということを感じて、その救いを受け取ることです。

洗礼を受ける時、聖霊なる神さまによって、わたしたちはイエスさまと一つに結ばれます。そうして、イエスさまの十字架の死が、罪人であるわたしの死となる。そして、イエスさまの復活の命が、神さまと共に生きる、わたしの新しい命となります。こうしてわたしたちは、イエスさまによって、罪を赦され、イエスさまによって、永遠の命をいただきます。

一度イエスさまに結ばれたわたしたちは、永遠にこの方から離されることはありません。ですから、洗礼は、生涯に一度だけ受けるものです。

一方で聖餐は、生涯にわたって、繰り返し与り続けます。聖餐では、洗礼を受けた者たちが、裂かれた小さなパンと、小分けにされた杯を共にいただきます。

聖餐は、「主の食卓」と言われることもありますが、わたしたちが生きるために食べ続ける食事のようなものです。もちろん、この小さなパンと杯で、胃袋が満たされるわけではありません。

でも、このパンと杯という、目に見えるしるしを通して、わたしたちは、目に見えない救いの恵みを、確かなものとして受け取り、自分の中にいただくのです。

これは、わたしたちの魂を養い、信仰を強め、存在を支える、欠くことのできない、まことの命の糧なのです。

日々の生活において、もし食事を抜けば、わたしたちは飢え渴き、やせ細り、弱ってしまいます。同じように、日々の信仰生活においても、聖餐の食卓がなければ、弱いわたしたちは、すぐにやせ細ってしまいます。何かあれば、神さまの恵みを疑ったり、不安に陥ったり、他のものに頼ったりしてしまう。あるいは、自分が神さまに頼らないと生きられない、ということさえ、忘れてしまうこともあります。

そのようなわたしたちの弱々しい信仰の歩みが、絶えず強められ、確かにされ、新たにされるために、イエスさまご自身が、「聖餐を行いなさい」と定めて下さったのです。

<聖餐の制定>

今日の『ハイデルベルク信仰問答』の最後、問 77 は、イエスさまが聖餐を定めて下さったことを示す、聖書箇所が書かれています。

ここには、コリントの信徒への手紙一 11：23～28 までが書かれています。この手紙は、パウロが書いたものですが、その中で語られているイエスさまのみ言葉は、イエスさまご自身が、最後の晩餐の時に、弟子たちにお語りになったことを受け継いでいます。

少し長いですが、問 77 の答えの途中まで読みます。

「問 77 信徒がこの裂かれたパンを食べ、この杯から飲むのと同様に確実に、御自分の体と血とをもって彼らを養いまた潤してくださいと、キリストはどこで約束なさいましたか。」
「答 聖晩餐の制定の箇所、次のように記されています。わたしたちの「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『(取ってたべなさい。) これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです」。

これは、イエスさまが十字架に架けられる前の夜に、弟子たちと共に食事をされた時に、イエスさまが言われた御言葉です。パンを裂いて、これは、あなたがたのためのわたしの体である、と言われた。杯を取って、この杯は、わたしの血によって立てられる、新しい契約である、と言われた。

多分、この時の弟子たちには、イエスさまがおっしゃることの意味が、全く分からなかったと思います。パンを自分の体だ、杯を自分の血だ、と言い出して、なんだか気持ちの悪いことをおっしゃるなあ…と思ったかも知れません。

でも、この後弟子たちは、イエスさまが十字架に架けられ、その肉が裂け、血が流れるのを目撃することになります。そして、十字架で死なれたイエスさまは、三日の後によみがえり、弟子たちと再び出会って下さいました。そして、天に上げられました。

そこで、弟子たちは、やっとはっきりと知ったのだと思います。裂かれたパンが、イエスさまの十字架で裂かれた御体を。分かれた杯が、イエスさまの流された血を現わしている、ということ。そして、そのイエスさまが苦しんで死なれた十字架の死によって、自分たちの罪が赦されて、神さまと共に生きる、永遠の命をいただいた、ということです。

それから、ペンテコステの日、弟子たちに聖霊が降りました。その日に弟子たちは、イエスさまの十字架と復活を宣べ伝え、それを聞いた多くの者が洗礼を受けました。そして、洗礼を受けた者たちは、イエスさまが定めて下さった聖餐を、共に守り続けてきたのです。

イエスさまの救いに与った者たちの群れは、聖餐のパンと杯を通して、イエスさまの十字架の苦しみと死を覚え、その命をいただいたことを覚え、与えられた救いの恵みを、繰り返して、深く味わい、受け取って来ました。そして、それは今も変わらず続けられています。

わたしたちの教会も、この聖餐を受け継いでいるのです。イエスさまが備えて下さった、聖餐の食卓を囲む弟子たちの一人に、ここにいるわたしたちも加えられているのです。

聖餐は、イエスさまに救われた一人一人の信仰を生かし続け、また、そのことによって教会を生かし続けてゆくものなのです。

<聖餐が思い起こさせ、確信させること>

今日の『ハイデルベルク信仰問答』は、この聖餐について、教えています。聖餐とは、具体的にどういうものか。どういう意味か。何が起きているのか、ということです。

まず問 75 ですが、実はこの問いそのものが、すでに、聖餐とは何かということを示しています。問 75 には、こうあります。

「あなたは聖晩餐において、十字架上でキリストの唯一の犠牲とそのすべての益にあずかっていることを、どのように思い起こしましたか確信させられるのですか。」

つまり、聖餐とは、十字架上でキリストの唯一の犠牲とそのすべての益、つまり、恵みに与っていることを、思い起こし、また確信させられるためのものなのです。

答には、二つのことが語られています。第一に、こうあります。「第一に、この方の体が確かにわたしのために、十字架上でささげられ、また引き裂かれ、その血がわたしのために流された、ということ。それは、主のパンがわたしのために裂かれ、杯がわたしのために分け与えられるのを、わたしが目の当たりにしているのと同様に確実である、ということ。」

まず、聖餐において、思い起こし、確信させられるのは、イエスさまの十字架の死が、このわたしのためのものである、ということです。

聖餐は、イエスさまが「わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

でも、記念と言ってもそれは、わたしたちが小さなパンを食べて、「ああ、だいたい 2000 年前に、イエスさまという方が十字架に架けられたのだなあ」ということを、単に思い出す、ということではありません。

大切なのは、「わたしのために」ということです。今ここにいるわたしのために、イエスさまの体が裂かれた。今ここにいるわたしのために、イエスさまの血が流された。このわたしを、罪から救うために、イエスさまはご自分の命を与えて下さったのです。

それは、聖餐で、この目で見て、この手で触れて、具体的に食べ飲みすることが出来るパンと杯を、わたしのものとしていただくのと全く同じように、具体的に、確かに、このわたしに与えられた、救いの恵みなのです。

第二に、聖餐が、わたしたちに思い起こさせ、確信させることは、わたしたちの罪のために、イエスさまが十字架につけられた、そのことによって、このわたしが確かに養われ、満たされ、生かされている、ということです。答えにはこうありました。

「第二に、この方御自身が、その十字架につけられた体と流された血とをもって、確かに永遠の命へとわたしの魂を養い、また潤してくださる、ということ。それは、キリストの体と血との確かなしるしとしてわたしに与えられた、主のパンと杯とを、わたしが奉仕者の手から受け、また実際に食べるのと同様に確実である、ということです。」

…わたしたちが日々、食べたり飲んだりするのは、そのことによって、この体を養い、保ち、生かすためです。パンと杯は、まさにその日々の食事の一部です。

それと全く同じように。パンによって、わたしのこの肉体が養われるのと、全く同じに。わたしたちはイエスさまの十字架の死をいただくことによって。イエスさまの救いの恵みをいただくことによって。神さまの御前にある「わたし」という存在が、確実に生かされ、養われ、保たれているのです。

<キリストの体を食べ、その流された血を飲むとは>

このように聖餐は、わたしたちがイエスさまからいただいた、目に見えない救いの恵みを、パンと杯という、目に見えるしるしを通して現わします。

そして、見えない救いの恵みが、見える現実と全く同じように、まことに確かな現実であることを、わたしたちに確信させるのです。

その上で問 76 は、聖餐で、実際にイエスさまの体を食べる、イエスさまの血を飲む、ということが、いったい何を現わしているか、どういう恵みを現わしているか、と問います。

[信仰の心をもって受け入れる]

問 76 の答えは、三段落に分かれているように、三つのことを教えています。

まず、答えの一つ目には「それは、キリストのすべての苦難と死とを、信仰の心をもって受け入れ、それによって罪の赦しと永遠の命をいただく、ということ」とあります。

まず、聖餐で、イエスさまの肉を食べ、その流された血を飲む、というのは、イエスさまの十字架の苦しみと死を、わたしたちが信仰の心をもって受け入れる、ということです。

イエスさまの十字架の苦しみと死こそが、わたしの罪の贖いとなり、またわたしに、神さまとの正しい関係に生かし、永遠の命を与えるものであると、受け入れることです。

この信仰の心がなければ。イエスさまの十字架の死を、自分の救いとして受け入れているのでなければ。パンを食べても、杯を飲んでも、何を思い起こすことも、確信することはありません。それは、ただの小さなパンを食べ、小さな杯を飲んだだけに過ぎず、お腹の足しにもならないのです。

でも、信仰の心をもって、イエスさまの救いを、わたしのものとして受け取った者が、聖餐の食卓に与るとき。その者にとって、裂かれたパンを食べるとは、わたしの罪のために裂かれたイエスさまの体を覚えて、深く自分の中に受け止めることです。また、分かれた杯を飲むとは、わたしを生かすために流されたイエスさまの血によって、このわたしが神さまとの恵みの関係に生かされている、という確信を与えられることです。

信仰をもって、聖餐にあずかるからこそ、パンはイエスさまの体、杯はイエスさまの血を現わすものとなり、イエスさまの十字架の死によって与えられた、罪の赦しと、永遠の命が、ますます確かなものとして、受け止められるのです。

[イエスさまといよいよ一つに]

そして、二つ目です。聖餐において「十字架につけられたキリストの体を食べ、その流された血を飲む」とは、「キリストのうちにも わたしたちのうちにも住んでおられる聖霊によって、その祝福された御体といよいよ一つにされてゆく」ということです。

聖餐は、神さまの恵みの出来事であり、特に「聖霊」のお働きが大切です。聖霊のお働きによって、わたしたちの目に見える現実と、目には見えない、しかし、確かにある神さまの恵みの現実が、一つに結ばれるのです。

ですから、聖餐でパンを食べる時、わたしたちは、見えないけれども、まことにイエスさまの体をいただいているのであり。杯を飲む時、わたしたちは、この目には見えないけれども、まことにイエスさまの血を、この体に受け取っています。

そうして聖餐が行われる度に、わたしたちは、イエスさまの御体に、いよいよ確かに一つに結ばれてゆくのです。

[肉の肉、骨の骨]

そして、答えの三つ目の段落は、そのことをさらに深く語っています。こうあります。

「それは、この方が天におられ、わたしたちは地上にいるにもかかわらず、わたしたちがこの方の肉の肉、骨の骨となり、ちょうどわたしたちの体の諸部分が、一つの魂によってそうされているように、わたしたちが一つの御霊によって永遠に生かされ、また支配されるためなのです。」

イエスさまは、天におられ、わたしたちは、地上にいます。それにも関わらず、わたしたちは、聖霊のお働きの内に、聖餐に与るとき、このわたしが、イエスさまの肉の肉、骨の骨と言われるほどに、この方と一体とされていること。それほどに、この方が、わたしのものであり、わたしが、この方のものである、ということ、深く確信するのです。

日々の生活をしていると、わたしたちは時々、天におられるイエスさまを、遠く感じてしまうことがあるのではないのでしょうか。目の前の現実が、大変で、惨めで、苦しく、辛いとき。本当にイエスさまは、このようなわたしと、共におられるだろうか。そんな風に思ってしまうことが、あるかも知れません。

十字架による罪の贖いを成し遂げ、復活なされたイエスさまは、その祝福された、栄光の御体をもって、今は、確かに天におられます。わたしたちの目に、そのお姿は見えません。でも、イエスさまは、聖霊によって、いつも、この地上を歩むわたしたちの、最も近くに、傍らに、共におられます。共におられるどころか、深く一体となっていて下さいます。

聖餐において、わたしたちは、この天におられるイエスさまと、今まさに共にある、ということ、パンと杯が確かにこの手にあるがごとくに、確かなこととして受け取るのです。

今日読まれたヨハネによる福音書 6：56 には、こうありました。

イエスさまの御言葉です。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」

わたしが、イエスさまの内におり、イエスさまが、わたしの内にいて下さる。イエスさまの体を食べ、血を飲むとは、そのように、天におられ、生きておられる復活のイエスさまと、深く、一体とされることなのです。

この「肉の肉、骨の骨」という表現を、どこかで聞いたことがあるでしょうか。

これは創世記で、一人でいたアダムに、神さまが、共に生きる相手としてアダムの骨から女を造り、連れてこられた時に、アダムが言った言葉でした。こうして、二人は一体となる、と創世記は続けます。

つまり、イエスさまとわたしたちは、体も魂も心も、深く一体とされる、肉の肉、骨の骨と言われるほどに、分ち難く結ばれている、ということです。

聖餐において、具体的にパンを食べ、具体的に杯を飲むのと同じように。わたしたちはまことにイエスさまの体を食べ、まことにその血を飲み、イエスさまの肉の肉、イエスさまの骨の骨とされ、イエスさまの御体にしっかりと結ばれるのです。

このように、聖餐は、聖霊のお働きによって、天におられるイエスさまと、地上のわたしを、深く、真実に、一つに結びつける食卓なのです。

ですからわたしたちは聖餐に与るたびに、地上にあっても、天に心をあげて、地上のものではなく、天のものに心を向けて、イエスさまを見つめて、歩んでゆくのです。

<まことの食べ物、まことの飲み物>

このように、イエスさまとわたしが、確かに一つに結ばれているという現実を、聖餐は、わたしたちの目に見える形で、確かなものとして、確信させてくれます。

聖餐は、イエスさまに結ばれたわたしたちが、その恵みを確信し続け、イエスさまの命に生かされ続けていくために、欠くことのできない食事なのです。

イエスさまは、ヨハネによる福音書 6：55 でこう言われました。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。」

わたしたちは、このまことの食べ物、まことの飲み物なしには、生きられません。イエスさまなしには、生きられません。イエスさまに罪を贖っていただかなければ。イエスさまに、永遠の命をいただかなければ。そして、絶えず恵みを注がれ続けなければ。わたしたちは、神さまの御前に立って、神さまと共に、生きていくことができないのです。

わたしたちは、聖餐に与るたびに、恵みを新たにされ、救いを確信させられます。そして、ますますイエスさまとの関係を深められ、ますますイエスさまと一体となり、ますますイエスさまに頼るようになり、ますますイエスさまを愛する者となってゆくのです。

この聖餐の食卓は、イエスさまが天から再び来られて、神の国を完成させて下さる、その日まで続いていきます。そして、終わりの日には、まことの天の祝宴に至るのです。

今あずかっている聖餐の食卓は、その終わりの日、救いの完成の日の、天の祝宴の先取りのようなものです。わたしたちは、天におられるイエスさまと共にあって、その恵みに豊かに養われつつ、その日を心から待ち望んで、与えられた信仰の日々を歩んでいくのです。

この食卓には、すべての者が招かれています。イエスさまの十字架で裂かれた体、流された血は、すべての人の罪を赦すために、差し出されています。

神さまは、一人一人が、それを自分のために成し遂げられた救いとして、感謝をもって、悔い改めをもって受け取り、洗礼を受けることを待っておられます。

主の恵みの食卓に、一人でも多くの方が、共に席に着き、まことの食べ物と、まことの飲み物を受け取り、新しい命を生きてゆくことが出来るように、祈り願います。

【お祈り】

天の父なる神さま

御子イエスさまを、わたしたちの罪の贖いのために、この世にお送り下さったこと。また、イエスさまが、わたしたちのために、このわたしのために、ご自分の体を裂き、また血を流して、罪の赦しと、永遠の命を与えて下さったことを、感謝いたします。

聖餐の恵みによって、この十字架の主の体と血によって、まことの食べ物であるイエスさまの肉と、まことの飲み物であるイエスさまの血によって、わたしたちが救われ、生かされ、永遠の命に養われていることを、常に覚えさせて下さい。

また、主の食卓に招かれているすべての者が、聖霊の導きによって、その招きにお応えし、信仰の心をもって、救いの恵みを受け取ることが出来ますように。

このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 18 「心を高くあげよ！」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】 【主の祈り】

【讚美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン